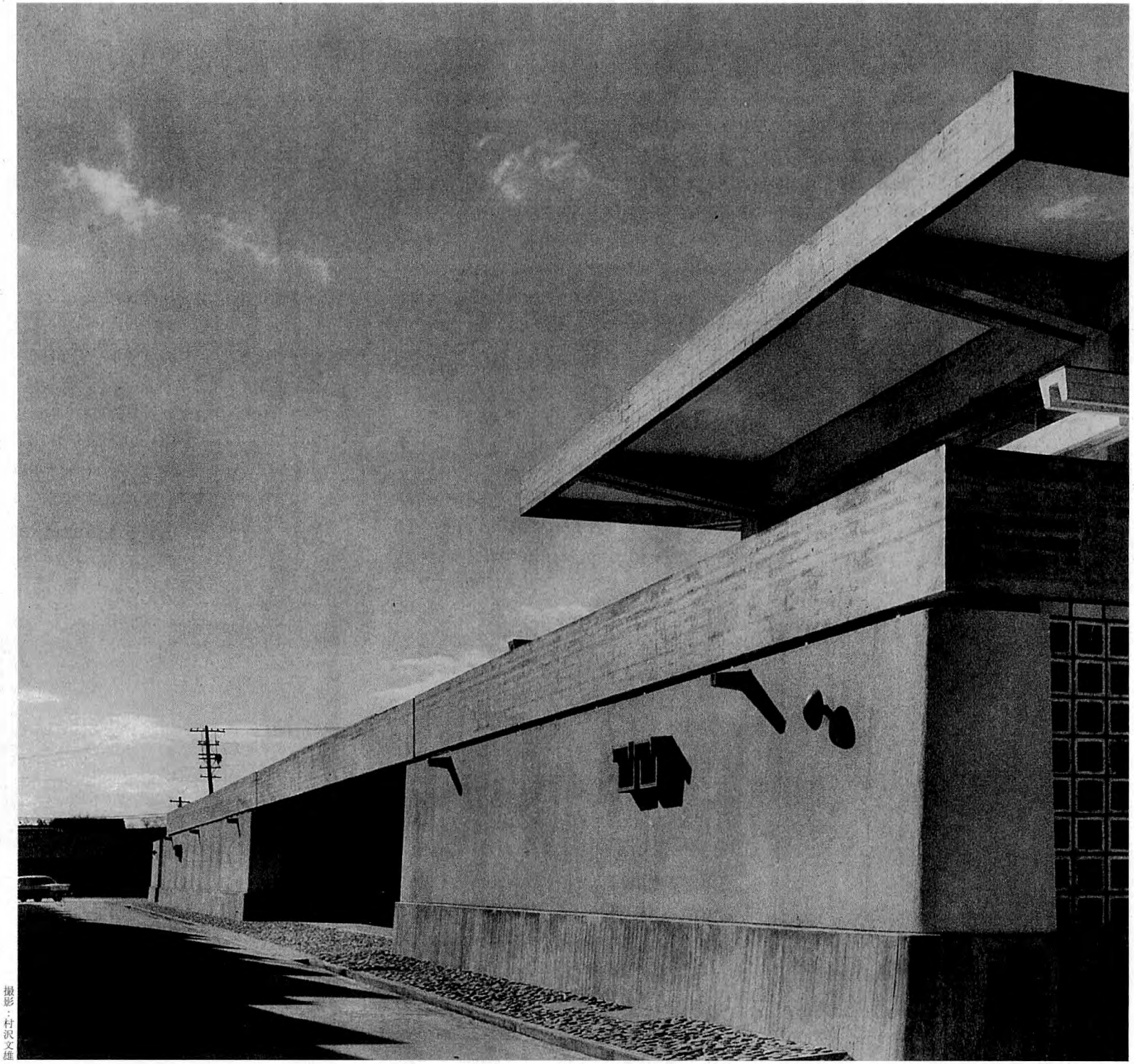
登録有形文化財

墨会館

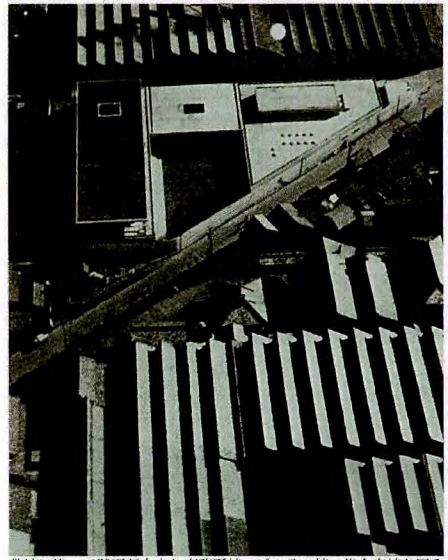


撮影：村沢文雄

竣工当時の建物外観。敷地境界に沿って立ち上がったコンクリート製の壁面に出入り口が穿ってあるような外観
撮影：愛知工業大学工学部准教授　野々垣篤

建築概要

所在地　一宮市小信中島字南九反 11-1
竣工年　昭和 32 年（1957）
設計者　丹下健三
構造規模　鉄筋コンクリート造平屋一部 2 階建
敷地面積　3,398.82 ㎡
建築面積　2,209.93 ㎡
延床面積　2,525.14 ㎡（建築基準法上）



敷地に沿って壁面が立上り事務所棟、ピロティ棟、集会室棟を囲う
撮影：二川幸夫

建築をめぐる物語

墨会館の建設は、昭和 27 年、墨敏夫社長が当時東京大学工学部建築学科の助教授であった丹下健三氏に設計を依頼し、その場での応諾はなかったが何回も足繁く依頼に通う熱意に丹下氏もようやく引き受けることとなり、現地調査のため来社もした。しかし、当時外国で著名になりつつあった丹下氏は、昭和29年から1年間カリフォルニア大学の建築科教授として招かれ、話は中断のかたちとなってしまった。偶然にも、昭和 30 年に墨社長が東京に出張する特急電車の中で丹下氏と出会い、中断となっている設計を願ったところ「やりましょう」とようやく実現に向けて動き出した。「二階建てとし、南側には会議室、集会室をつくり、庭は園遊会ができるようフラットな芝生にしたい。」などの希望を述べてあとは任せた。

昭和 32 年に独創的なスタイルの建物が完成したが、世界的権威者の考えた超近代的建築とあって、まさにユニークなものであった。

とくに建物の柱、壁はコンクリートのままで、よく見るとそこには木の木目、節あとがきれいに出されている。このため木型は寸分の狂いもなく正確につくられ、コンクリートの流し込みも途中で切らすことなく一気に行うというむずかしい工法がとられた。

完成した会館を見た社員の中には、コンクリートの肌が剥（む）き出しのままになっているため、「上塗りはしないのに完成とは・・・」と小首をかしげるものもあった。

当時、名古屋近辺では、コンクリートが打ち放しの建物はまったく見られず、そう思うのも無理はなかった。

参考文献：艶金興業百年史編纂委員会編「墨敏夫　知と技の軌跡　100 年」

登録有形文化財としての特徴・評価

登録の基準　造形の規範となっているもの
登録理由　丹下健三設計の RC 造事務所建築。台形敷地北辺の 2 階建事務所棟と南半の平屋ホール棟を玄関車寄で接続する。1 階外壁は非構造体で、上端にスリットを入れて採光とする。ダブルビームの大梁、打放しコンクリート等、丹下の初期作品の特徴が見られる佳品。

保存活用コンセプト

墨会館は平成 20 年 7 月 8 日に登録有形文化財の登録を経て一宮市が取得するまで、艶金興業の本社として利用されてきており、あくまで一般的な改修と補修工事を経てきている。

現在においても外観上及び構造耐力上問題となる亀裂は認められないが、竣工後 55 年以上が経過しており、建物を保存・活用していくために老朽化への対応が必要不可欠となっていた。

また、墨会館のある小信中島地区は公民館活動の拠点となる施設が無く、公民館の設置が強く望まれていたことから、建築文化財としての価値の保存、建物の機能の再生・転用を図ることによって地区のランドマーク・街づくりの核としての存在意義の付与を図ることとした。

墨会館は丹下健三氏の初期作品の特徴が見られる建築物であり、日本の近代建築のデザイン史にふれることのできる貴重な建築である為、改修の基本方針を「墨会館における丹下健三氏の設計的特徴を守りつつ、活用を図る」として、生涯学習施設として保存・再生・活用を行った。

撮影：株式会社丹下都市建築設計

丹下健三　KENZO TANGE

丹下 健三（たんげ けんぞう、1913年9月4日 - 2005年3月22日）

日本の建築家、都市計画家。

日本人建築家として最も早く日本国外でも活躍し、認知された一人。第二次世界大戦復興後から高度経済成長期にかけて、多くの国家プロジェクトを手がける。また磯崎新、黒川紀章、槇文彦、谷口吉生などの世界的建築家を育成した。位階勲等は従三位勲一等瑞宝章、文化勲章受章。フランス政府よりレジオンドヌール勲章受章。

1913年（大正2年）　大阪府堺市に生まれる。
1918年（大正7年）　上海日本人・尋常小学校入学。
1920年（大正9年）　愛媛県今治市に家族で帰郷。
　今治の第二尋常小学校に編入。
1926年（大正15年）　旧制今治中学入学。
1930年（昭和05年）　旧制広島高校理科甲類に入学。
1935年（昭和10年）　東京帝国大学工学部建築科に入学。
1938年（昭和13年）　東京帝国大学工学部建築科卒業
　前川國男建築事務所に入所。
1941年（昭和16年）　東京帝国大学大学院に入学。
1942年（昭和17年）　大東亜建設記念造営計画設計競技に1等入選。
1946年（昭和21年）　東京帝国大学建築科助教授に就任。丹下研究室発足。
1951年（昭和26年）　CIAM（国際近代建築会議）に招かれ
　ロンドンで広島計画報告。
1954年（昭和29年）　日本建築学会作品賞（愛媛県民館）。
1958年（昭和33年）　アメリカ建築家協会（AIA）第1回汎太平洋賞受賞。
1963年（昭和38年）　東京大学工学部都市工学科教授に就任。
1965年（昭和40年）　日本建築学会特別賞（国立屋内総合競技場）
　RIBAゴールドメダル受賞。
1966年（昭和41年）　AIAゴールドメダル受賞。
1970年（昭和45年）　ローマ法王庁聖グレゴリオ騎士章受章。
1973年（昭和48年）　フランス建築アカデミー
　ゴールドメダル受賞。
1974年（昭和49年）　東京大学を定年退官、名誉教授となる。
1976年（昭和51年）　西ドイツ政府プール・ル・メリット勲章。
1979年（昭和54年）　イタリア国家有功勲章コメンダトーレ章。
1980年（昭和55年）　文化勲章受章。
1986年（昭和61年）　日本建築学会大賞。
1987年（昭和62年）　プリツカー賞受賞。
1993年（平成5年）　高松宮殿下記念世界文化賞建築部門受賞
1994年（平成6年）　勲一等瑞宝章受章。
1996年（平成8年）　レジオンドヌール勲章受章。
2005年（平成17年）　3月22日死去（91歳）。

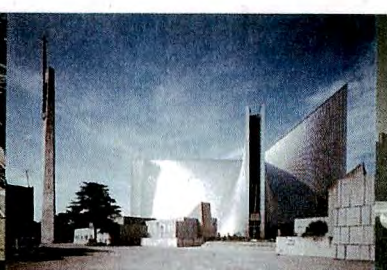
丹下健三作品履歴

1941年　岸記念体育会館　現存しない
1942年　大東亜建設記念営造計画　実現せず
1943年　在盤谷日本文化会館計画　実現せず
1948年　広島平和記念カトリック聖堂計画　実現せず
1952年　広島平和記念館原爆記念陳列館本館（旧・西館）国の重要文化財
　（現・広島平和記念資料館本館）
　外務省庁舎計画　実現せず
　広島子供の家　現存しない
　愛媛県民会館　現存しない
1953年　丹下健三自邸　現存しない
1953年　清水市庁舎　現存しない
1954年　津田塾大学図書館
1955年　広島平和会館本館（現・広島平和記念資料館東館）
1955年　広島平和記念公園（国の名勝
　図書印刷原町工場（現・図書印刷沼津工場）
1955年　旧東京都庁舎　現存しない
1957年　倉吉市庁舎
1957年　駿府会館／静岡市体育館　現存しない
1957年　墨記念館（現・墨会館　小信中島公民館）
1958年　香川県庁舎（現・東館）
1958年　今治市庁舎・公会堂
1958年　旧草月会館　現存しない
1958年　トロント市庁舎計画　実現せず
1960年　WHO（世界保健機構）本部計画　実現せず
1960年　倉敷市庁舎（現・倉敷市立美術館）
1960年　立教大学図書館
1960年　今治信用金庫本店（現・愛媛信用金庫今治支店）
1960年　電通大阪支社　現存しない
1961年　熱海ガーデンホテル　現存しない
1961年　コクヨ東京支店　現存しない
1961年　戸塚カントリークラブ・クラブハウス　現存しない
1962年　日南市文化センター
1964年　香川県立体育館
1964年　東京カテドラル聖マリア大聖堂
1964年　東京オリンピック国立屋内総合競技場（代々木体育館）
1966年　山梨文化会館
1966年　静岡新聞・静岡放送東京支社
1967年　電通旧本社ビル（現・電通テック本社ビル）
1967年　ゆかり文化幼稚園
1967年　台北聖心女子大学
1967年　ニューヨーク・フラッシング・メドウ・スポーツ・パーク
1967年　東京聖心インターナショナル・スクール
1968年　静岡新聞・静岡放送東京本社ビル
1970年　日本万国博覧会会場基幹施設マスタープラン・お祭り広場　現存しない
1970年　駐日クウェート大使館
1971年　アルジェリア・オラン総合大学・病院および寮
1974年　ミネアポリス・アート・コンプレックス
1974年　在日ブルガリア大使館
1976年　在メキシコ日本大使館
1977年　在日トルコ大使館
1977年　草月会館
1977年　カタール宮殿　実現せず
1977年　ハナエ・モリビル　現存しない
1978年　東京大学本部庁舎・理学部校舎
1979年　クウェート国際空港
1979年　ダマスカス国民宮殿（現・シリア大統領官邸）
1981年　サウジアラビア国国家宮殿・同国王宮殿
1982年　キングファイサル財団本部
1982年　赤坂プリンスホテル新館　現存しない
1982年　兵庫県立歴史博物館
1982年　愛媛県県民文化会館
1985年　在サウジアラビア日本国大使館
1985年　広島厚生年金会館（現・広島市文化交流会館）
1986年　シンガポール・OUBセンタービル
1986年　シンガポール・ナンヤン理工大学
1986年　桐蔭学園幼稚園・小学校・中学校
1989年　シンガポール・インドア・スタジアム
1989年　大津プリンスホテル
1989年　広島国際会議場（広島国際平和文化会館）
1989年　横浜美術館
1989年　アップリカ本社ビル
1990年　アメリカ医師会本部ビル
1990年　君津市民文化ホール
1991年　新東京都庁舎
1992年　グラン・テクラン（パリ・イタリア広場）
1992年　国際連合大学本部施設
1992年　兵庫県立人と自然の博物館
1993年　幕張プリンスホテル（現・APAホテル&リゾート東京ベイ幕張）
1994年　新宿パークタワー
1994年　広島平和記念資料館東館
1995年　日光東照宮客殿・新社務所
1995年　シンガポール・UOBプラザ
1996年　フジテレビ本社ビル
1996年　山口県立萩美術館・浦上記念館
1998年　WHO神戸センター
1998年　BMWイタリア本社ビル
2000年　ニース国立東洋美術館
2000年　新香川県庁舎
2000年　ベアズパウ・ジャパン・カントリークラブクラブハウス
2000年　東京ドームホテル
2002年　国立広島原爆死没者追悼平和祈念館
2003年　サルヴァトーレ・フェラガモ・フラッグシップショップ
2003年　南アルプス芦安山岳館
2003年　ルクセンブルク大使館
2004年　スナム・オフィスタワー・プロジェクト
2005年　上海銀行本社ビル
2005年　統一台北本社ビル
2005年　東京プリンスホテルパークタワー（現・ザ・プリンス・パークタワー東京）
2005年　財団法人癌研究会有明病院
2006年　御茶ノ水NKビル
2006年　キャセイ複合施設再開発プロジェクト

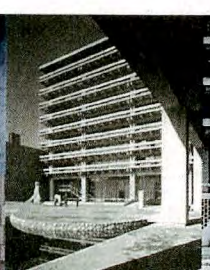
2005年 上海銀行本社
撮影：株式会社丹下都市建築設計

1991年 新東京都庁舎
撮影：村井修

1964年 東京オリンピック国立屋内競技場
撮影：村井修



1964年 東京カテドラル聖マリア大聖堂
撮影：村井修



1958年 香川県庁舎
撮影：村沢文雄

1957年 旧東京都庁舎
撮影：村沢文雄

1941年 広島ピースセンター
©高知県，石元泰博フォトセンター

竣工時　1階平面図

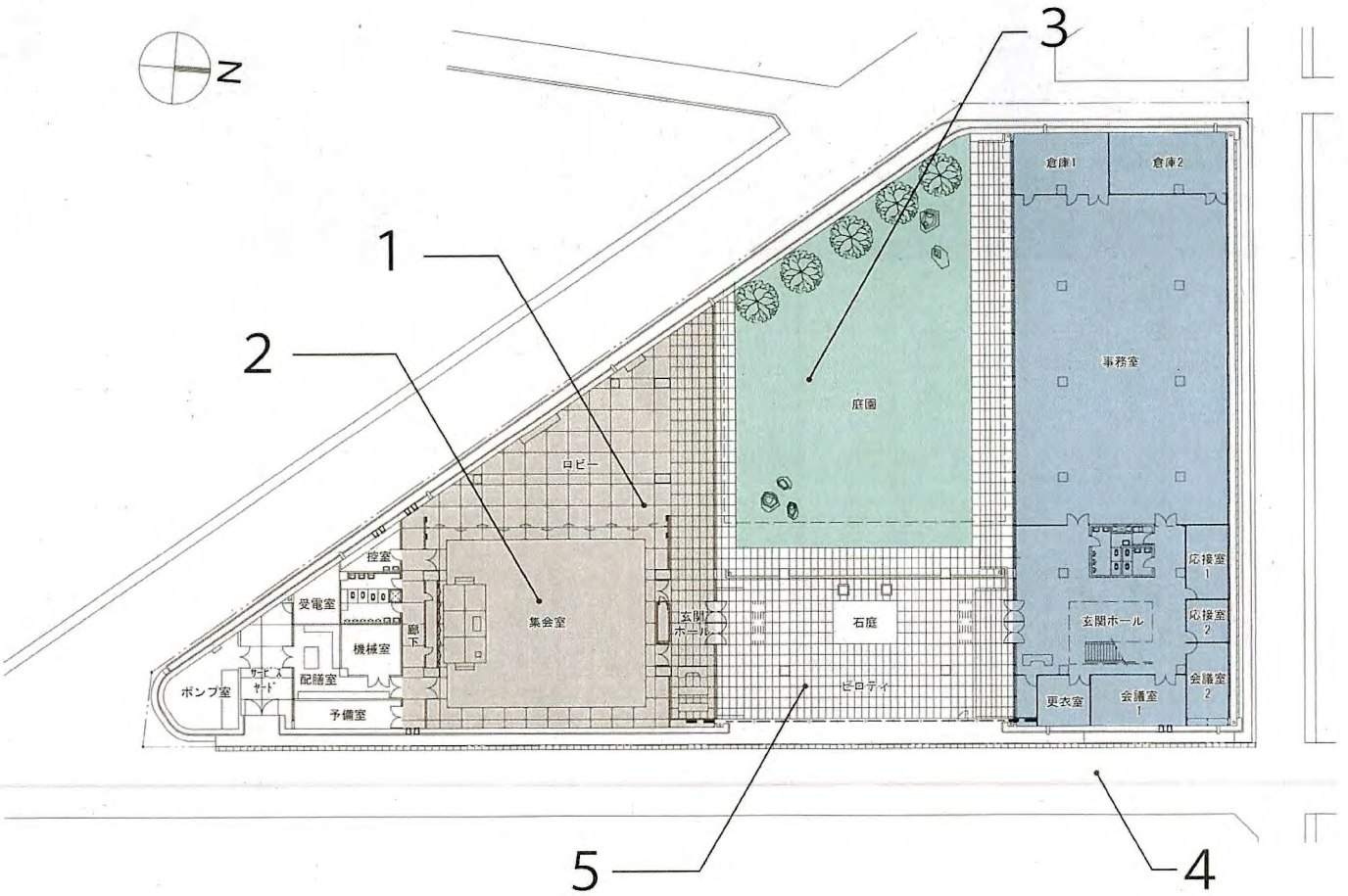
事務室や会議室等の事務所機能の他に集会機能を設けたいという墨敏夫社長の要望を受け、墨会館は台形敷地の中で大きく３つに分けて構成されている。

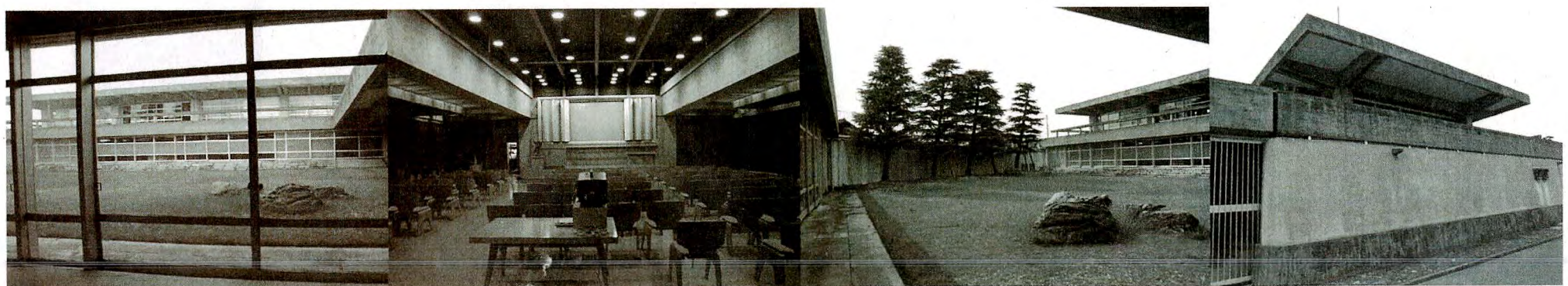
事務所機能は２階建てとして敷地北側に寄せて配置し、集会機能は集会室とロビーとを一体的な空間として配置することで狭窄していく敷地南側を有効利用している。その２つの機能を、車寄せとして利用するピロティと庭園で繋いでいる。庭は園遊会が開けるように集会室ロビーから連続して利用できるように意図され、また北側の事務室に明るい光と心地よい風を招き入れるよう計画されている。

また墨会館の外観上の特徴である、敷地・建物全体を取り囲む壁の存在は、周囲に工場が多くトラックの往来が激しいという立地条件を踏まえて考案された。

壁をめぐらせるこの方法、つまり内部空間を閉鎖的に包み込むことで外部の影響からはじめて遮断され、事務室、集会室の機能を高めている。

さらにこの方法による空間構成は、庭園が事務室、集会室という異質な機能空間を結合するための有効な媒体であることを可能にしただけではなく、テラコッタグリルによって装飾された車寄のスペース（ピロティ）によって来訪者を開放的に迎えることを可能にしたのである。





1：ロビーより中庭をみる（平成 20 年当時）
撮影：野々垣篤

2：集会所（平成 20 年当時）
撮影：野々垣篤

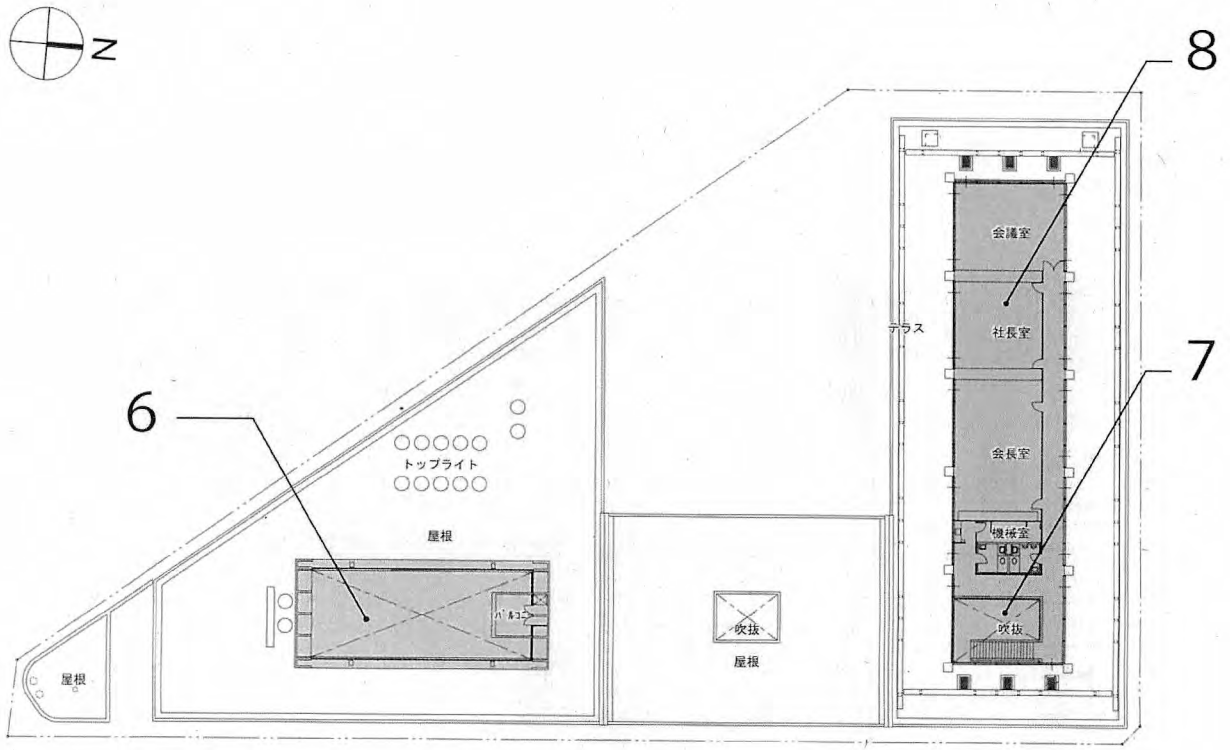
3：中庭（平成 20 年当時）
撮影：野々垣篤

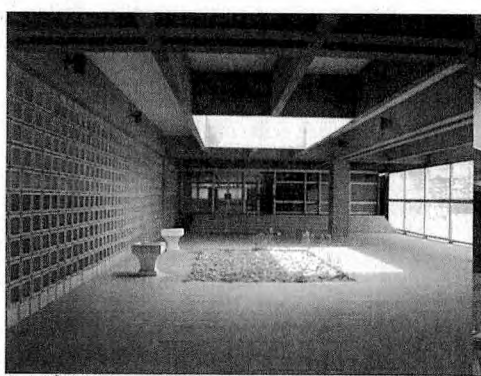
4：外周部に設けられたスリット窓

竣工時　2階平面図

2階は敷地北側の事務所機能のみであり、会議室や社長室等が東西方向を長手として並んでいる。

諸室の外部には勾欄（こうらん：宮殿・神殿などのまわりや、橋・廊下などの両側につけた欄干）付の幅の広いテラスが廻り、その上部には外観の特徴となっている屋根が打放しコンクリートの柱とそこから張り出すダブルビームの梁によって大きくせり出して設けられている。小梁が連続する集会室は一部の天井が高く持ち上げられ、光と通風を確保し開放的な空間とすると共に、水平に広がる空間に中心性を持たせている。

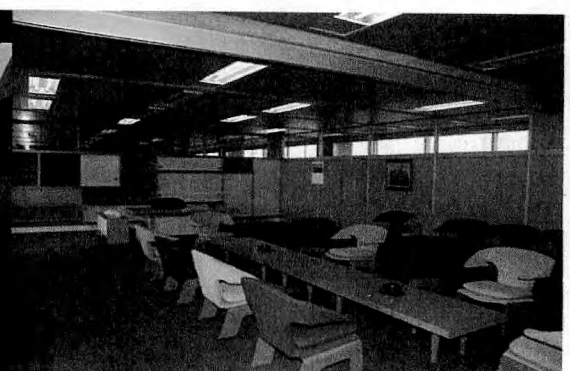




5：ピロティ

6：集会所の吹き抜け部（平成20年当時）
撮影：野々垣篤

7：玄関ホール（事務所棟）
©高知県，石元泰博フォトセンター



8：社長室（平成20年当時）
撮影：野々垣篤

改修後　1階平面図

事務所建築として建てられた墨会館を公民館に改修するにあたり、出来る限りオリジナルな部分を残すようにした。

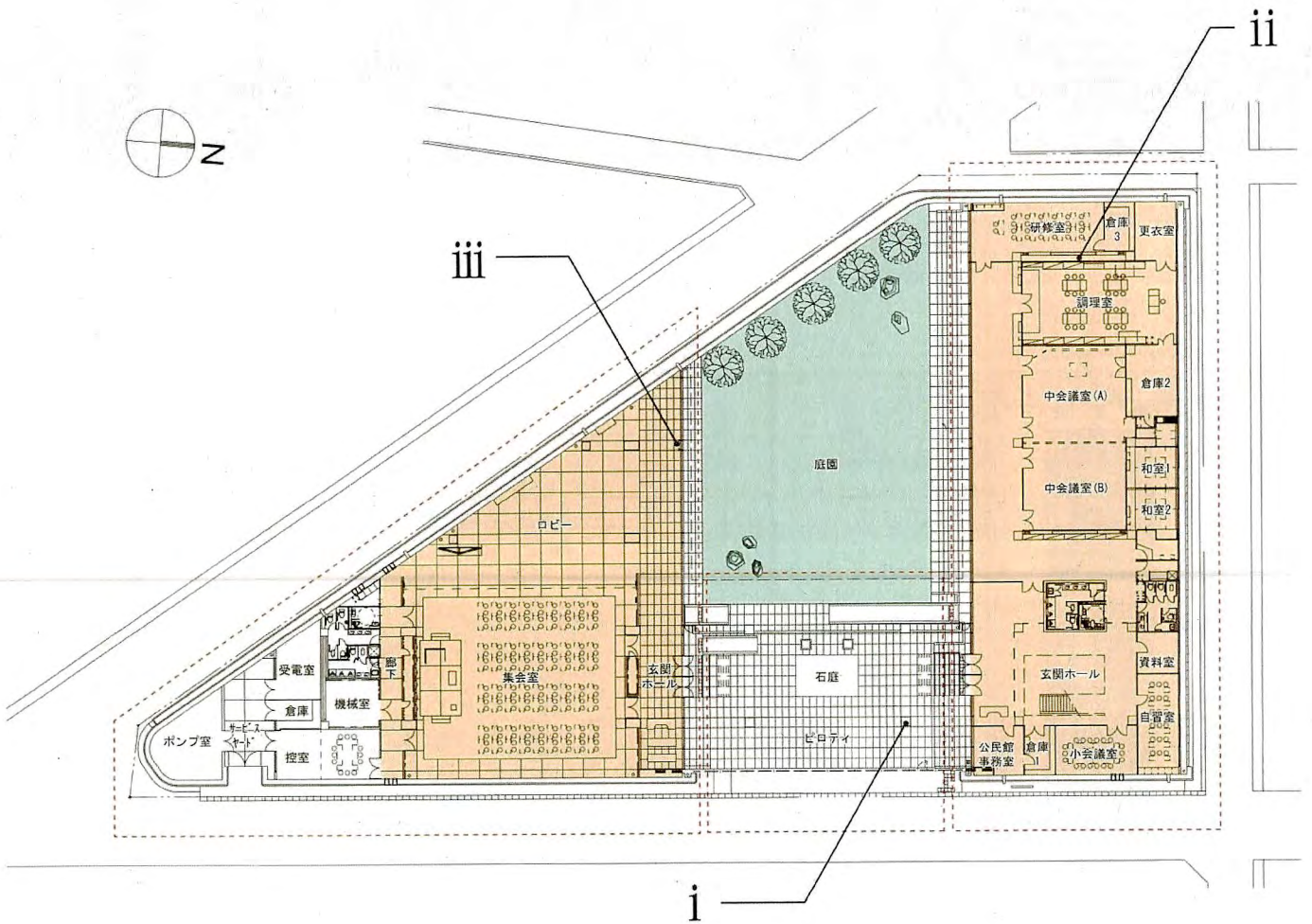
特に事務所棟1階の玄関ホールは墨会館の内部空間構成が凝縮されているので、防煙垂れ壁の設置等の法令適合化工事を除き、当時の姿を可能な限り残した。

また、墨会館は丹下氏の設計意図である柱によって自由に空間構成ができる施設であったため、公民館機能を満たすための改修は1階事務所棟にパーティション（間仕切）を新設することで公民館への転用を可能にしている。既設のパーティションの上部はすべてガラスが用いられ、空間の連続性を意識した仕様であったことから、会議室や料理実習室等を区分する壁の設置は既設パーティションの仕様を参考にして、既存建物の内部空間との調和を図っている。

※2階改修の検討について

墨会館は登録有形文化財であることから外観保存をすることが必要であり、外観の変更範囲も全体の4分の1以内に留めなければならない。

また、2階部分も公民館のように不特定多数の人が利用する施設とするためには、新たに避難経路の確保のための階段の設置が必要となり、建物の現況を大きく損なうこととなるため、文化財保護の観点から2階部分は車寄棟屋根及びテラス等の防水改修を除き、改修工事は行わないこととした。

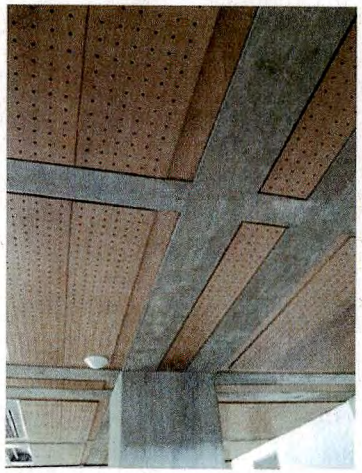


既設部分の特徴

構造体

構造は躯体が鉄筋コンクリートによってつくられ、型枠は非常に精度の高い杉板型枠が用いられている。集会室以外の大梁は２つに分けたダブルビームの構成としており、柱幅に合わせて配置されることで均整のとれた空間表現がなされている。

コンクリート表面の木目模様

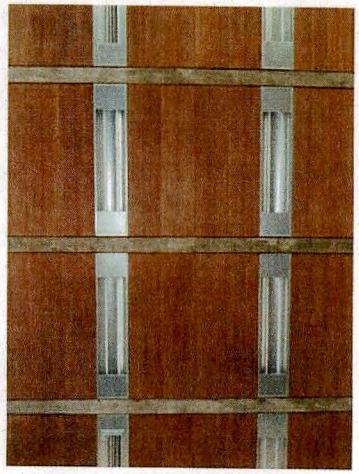


ダブルビーム構成の大梁

内部空間

玄関ホールの壁一面には大判タイルが貼られ、人々を迎えるアイストップとして機能している。天井は小梁間に木による仕上げを施し、照明によって格子状のグリッドを形成している。玄関ホール吹抜けの天井材は竣工時のままである。

集会室棟玄関ホールの大判タイルの壁面



コンクリート梁と木による天井仕上げ

耐震改修の特徴

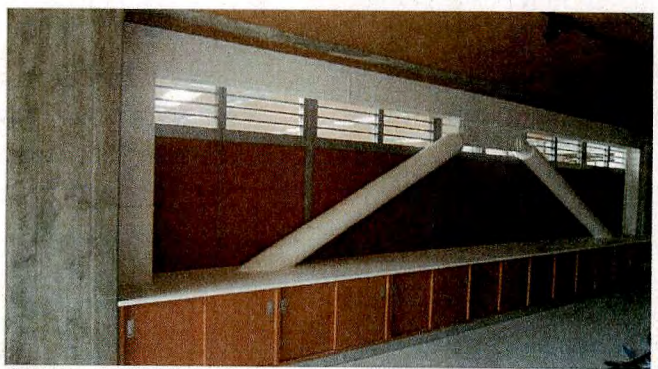
ⅰ．ピロティ棟柱巻き立て補強

ピロティを支える４つの柱について、既設柱のコンクリートを5cm分はつり、補強用の鉄筋を組み、その上に10cm分コンクリートを打設して補強している。

柱巻き立て補強後のピロティ部柱

ⅱ．鉄骨ブレースによる補強

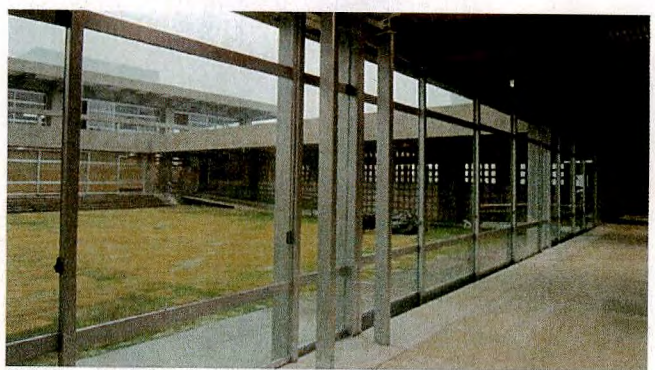
竣工時の雰囲気を阻害しないように玄関ホールに面することを避けた位置に鉄骨ブレースを挿入し、またその周囲に棚などを設けることでブレースの違和感を軽減するよう配慮している。



事務所棟１階の中会議室（新設）の壁面の鉄骨ブレース

ⅲ．キャンティレバー部分の鉄骨柱による補強

4.5mの片持ち部分の梁下にサッシの方立てに合わせた鉄骨柱を設けることで補強部材であることを示しながら、違和感を与えないように補強をおこなっている。



集会室棟１階の片持ち梁の下に据えられた鉄骨柱

登録有形文化財　墨会館　- 小信中島公民館 -

○利用案内

○見学時間

午前　10 時～ 12 時

午後　14 時～ 16 時

※入館受付は 15 時 30 分までにお願いします。

○休館日

年末年始（12/27 ～ 1/4）

○見学案内・問い合わせ先

公民館公開エリアについては、公民館活動等に利用されていない時間中はご自由にご見学いただけます。

非公開エリアとしている事務所等 2 階の見学をご希望の方は、事前に下記連絡先までご連絡ください。

○小信中島公民館

電話・FAX　0586-62-5150

○生涯学習課

電話　0586-85-7077　FAX　0586-73-9213

○アクセス

○公共交通機関でお越しの方

名古屋駅より電車とバスで約 40 分

・JR 東海道本線（⑥番のりば）にて「尾張一宮駅」下車、又は名鉄名古屋本線にて「名鉄一宮駅」下車　※JR 新快速・名鉄特急で 10 ～ 15 分

・一宮駅西口の名鉄バスターミナル②番のりばから「起（おこし）」行で約 15 分、「尾張中島」バス停下車、徒歩 10 分　※バスは約 15 分間隔で運行

○車でお越しの方

大阪方面より

・名神高速道路　岐阜羽島インターより
県道 18 号線（大垣一宮線）「郷東」交差点より約 3 分

東京方面より

・東海北陸自動車道一宮西インターより
県道 14 号線（西尾張中央道）「籠屋 3 丁目」交差点左折　県道 18 号線　約 10 分

※駐車場は公民館と共用利用